

## 第 24 回理事会議事録

1. 日時 : 2015 年 3 月 27 日 (金) 午後 6 時 30 分～11 時 15 分
2. 場所 : 東京都新宿区四谷 1-13 虎ノ門実業会館四谷ビル 2F 四谷ブリッジセンター
3. 出席者:【理事 12 名】 鳩山勝郎、大橋正幸、兼岩芳樹、ロバート・ゲラー、齋藤陽子、  
島村京子、高崎恵、寺本直志、中谷忠義、橋本公二、山田和彦、  
吉田正  
【欠席 1 名】 細田博之  
【監事 2 名】 神代高弘、成田秀則  
【事務局 3 名】 大政事務局長、清水普及事業部長、鈴木競技会事業部長代行  
【オブザーバー 1 名】 宮内宏顧問弁護士  
(理事現在数: 13 名、定足数 7 名、本人出席 12 名)

### 4. 議事の経過及び結果

鳩山勝郎会長代行を議長に、議題を逐一審議した。

第 1 号議案 第 23 回理事会議事録案の承認について  
議事録案を一部修正の上承認した。

第 2 号議案 会員の退会について  
事務局より以下の会員 4 名の退会届提出の報告があった。  
黒川晶夫 (会員番号 5630)、西脇透 (会員番号 12427)  
大泉紘一 (会員番号 119258)、山田厚二 (会員番号 49827)

第 3 号議案 平成 27(2015)年度予算案及び事業計画書について  
3 月 13 日開催の企画委員会に提出した予算案と比較して黒字幅が減少したが、これは 2 月末に購入した債券の利率が従来より低かったので受取利息の額を修正したためとの説明があった。  
また来年度は NEC ブリッジフェスティバルを開催しないが、隔年での開催では会場に無料で保管してもらっているブリッジテーブルを引き取る必要があり、別の場所での保管費用がかかるため、ほぼ収支均衡の横浜スイスチーム、飛鳥杯を開催したいとする案について説明があった。  
検討の結果、パシフィコ横浜での競技会開催を承認し、収益 226,698,220 円、費用 222,825,230 円、総額 3,872,990 円の黒字となる平成 27 年度予算案を承認した。  
平成 27 年度事業計画書については普及事業部の大学講座の記述に一部修正を行ったとの説明があり、検討の結果これを承認した。

山田企画委員長より、今回の予算案は各事業部で方針を決めて予算編成を行った後、業務執行会議を開催して全体の予算案をとりまとめ、その後企画委員会及び理事会で修正を重ねていったもので、非常に円滑に予算編成ができた。来年度以降も予算編成及び事業計画書の作成について同様の手順で行いたいと発言があった。

#### 第4号議案 表彰規則の改定について

大政事務局長より表彰規則の改正案について、マスターポイント関連では表彰の対象がこれまで年間レッドポイント最多獲得者と新人プレイヤーのみであったが、各マスター位での年間獲得マスターポイントの最多獲得者を表彰する条項を追加し、グッドマナー表彰を削除したとの説明があり、検討の結果一部記述内容を修正の上これを承認した。

山田理事より年間獲得マスターポイントの区分の修正を検討する組織を編成する提案があったが、現行の区分での対象人数を調査した上で、修正を行うか検討することになった。

#### 第5号議案 役員倫理基準の制定について

山田理事より提出された役員倫理基準について以下の説明があった。

堺順市氏が連盟の理事に就いていた時に錦糸町 BC の出資金を集めていた時と重なる時期があったので、「連盟理事である堺さん」に対して出資した人もおり、出資金が回収不能になったのは連盟理事会に責任があると考えている人がいると聞いている。この機会に、役員は会員・会友との、特にお金のやりとりに関しては、JCBL の活動と異なるのであればそれを明らかにして、疑いを招くようなことのないようにする必要がある。そのため、役員立場を利用しての金銭の受領、職務上知り得た情報の私的流用を避ける基準を作成した。

宮内弁護士から、役員が襟を正しているということを表明するためにこの基準を設けたと理解している。内容については理事会で議論して決めるのが良いと思うと発言があった。

中谷理事より連盟の役員は自発的に時間と労力を割いて業務にあたっており、高い倫理観を持っていると思うため、この基準の制定には反対であり、役員就任承諾書の提出時にこの内容を遵守する誓約書を提出してもらう方が良いと発言があった。

この基準を設けず同じ内容の誓約書を役員就任時に提出することにした場合、定款に役員就任の手続きが記載されているため、もし誓約書の提出を拒んでも役員就任には影響されないことを確認した。

倫理基準や行動規範のような規則にするのか、誓約書のような形式にするの

か、方法については山田理事が再検討し、次回理事会において改めて議論することにした。

#### 第 6 号議案 錦糸町ブリッジセンターについて

議事進行の都合により第 8 号議案審議終了後（大橋理事、大政事務局長、鈴木競技会事業部長代行は退席）事前配布資料をもとに錦糸町ブリッジセンターの未収金に関して審議を行った。その結果、責任者である事務局長の人事処分（降格）を決定し、詳細は人事委員会に委任することで合意した。また、本件に伴い J C B L の財政状況が悪化したことを鑑みて、未収金の「填補」に相当する一口 5 万円の拠出金を募り、本件に関連する役員に対し任意の口数の拠出を呼び掛けることとした。

#### 第 7 号議案 各委員会及び事業部報告について

##### 1. 人事委員会

鳩山人事委員長より 3 月 9 日に開催された人事委員会での議事内容について報告があり、事務局職員の 2014 年度の業務評価、3 月賞与の支給率、2015 年度年俸について、これを承認した。

清水普及事業部長は本年 12 月を以て定年となるが、継続雇用希望の意思があることを確認し、2016 年も継続雇用することになった。業務内容、報酬額については今後協議することにした。

##### 2. 企画委員会

山田企画委員長より 2 月 20 日及び 3 月 13 日開催の企画委員会について説明があった。

事業報告書について記載内容の概要について説明があり、次のような作成スケジュールとした。次回企画委員会の開催通知を送付する際に初稿を送付し、企画委員会で内容を検討後、第 2 稿を理事会事前配付資料として送付する。修正意見を加えた最終稿を理事会に提出して承認を受けることとした。

山田委員長より錦糸町問題について 1 章加える必要があるという意見が出され、山田委員長が記述することになった。

企画委員会傘下のディレクターワーキンググループが活動を開始し、第 1 回会合の内容について寺本委員より報告があった。

##### 3. センター協議委員会

山田センター協議委員長より 2 月 18 日開催のセンター協議検討会、3 月 20 日開催のセンター協議委員会について説明があった。

来年度の公認料率を決める際に今年度の普及活動を行うことで現行の公認料率を維持することになっているが、大塚ブリッジセンターが今年度普

及活動を行っていない上にウィークリーゲームを全く行っていないため、今後の対応を検討する。

センター側からの代表がこれまで横浜 BC 田村徹氏、東中野 BC 神初穰氏の 2 名であったが、今後神初氏と五反田ブリッジスタジオ久富健史氏、大船 BC 高野英樹氏の 3 名となる。

公認ブリッジクラブとセンターに関する規則の内容については、協議会の場で内容を検討しながら改定作業を進める。

センターとの間の会計基準を設ける必要があり、決済のルール作りについてもセンター協議委員会の場で協議を行う。

#### 4. 代表選抜委員会

橋本代表選抜委員長よりなるべくトライアルを行わない代表選抜方法の見直しについて説明があった。

オープンは年間獲得レッドポイントの上位 20 位までのプレイヤーが相互に投票を行い、最高得点者をプレイングキャプテンとする。プレイングキャプテンが自分を含めて 6 人のプレイヤーを選抜する。チーム確定後 NPC を指名できる。

ウィメンは女性の年間獲得レッドポイント 20 位までのプレイヤー及び全日本女子ペア選手権フライト A と服部杯フライト A の 5 位入賞者までを加えた中でオープンと同じ方式でチームを編成する。

シニアは応募のチーム数が参加可能なチーム数を上回った場合は、従来どおり選抜試合を行う。

中谷理事より来年以降のシニアは 1 ヶ国 1 チームになる可能性が高い。また、トライアルをやめて節約できる費用は 50~60 万円程度であるが、代表への助成の額が APBF 選手権と世界選手権で 1000 万円以上となることが問題であると発言があった。

見直し案は従来の方法と比べて大きく異なるため、今後代表経験者などの意見を聞いた上で、次回の理事会で改めて検討することになった。

高崎理事より他の国の代表選抜方法について調査を依頼する発言があり、中谷理事がトライアルを行っている国に対して直接尋ねることに決定した。

APBF 選手権シニア代表チームのキャプテンとして山田和彦氏がプレイングキャプテンを務める提案があり、これを承認した。

#### 5. 競技委員会

寺本競技委員長より 3 月 4 日開催の競技委員会について説明があった。

朝日新聞社杯フライト E（渋谷会場）で再戦について試合要項と異なる調整を行った事について説明があった。

#### 6. 普及事業部

2月13, 14日にNECブリッジフェスティバルにおいて体験教室、初心者大会、チャリティ古書市を開催した。昨年は雪のため参加者が少なく、昨年と比較して参加者は増えた。チャリティ古書市は36,133円の売上があり、連盟からの募金を加えた5万円をRoom to Read ラオス教育支援プログラムに寄付した。

ジュニアくらぶイベントの開催状況の報告及び今年度は連盟へのジュニアの入会者が13名あったと報告があった。

各大学の後期のブリッジ講座の登録者及び単位取得者の報告があった。

8月20～29日にオパティア（クロアチア）で開催される世界ユースオープン選手権の代表メンバーについて以下の指名の提出があり、検討の結果これを承認した。

NPC：三浦裕明

原田裕己（21, 慶應義塾大学）、中西智昭（21, 学習院大学）

片山尚徳（22, 早稲田大学）、田辺仁士（20, 東京大学）

7. 弓削裕要（20, 慶應義塾大学）、小林阜輝（19, 一橋大学）競技会事業部  
鈴木競技会事業部長代行より競技会事業部活動状況及びゴールドライフマスター1名、シルバーライフマスター8名、シニアライフマスター21名、ライフマスター15名の資格獲得者の報告があった。

#### 8. 国際交流事業部

事務局よりNECブリッジフェスティバルの収支報告の提出があり、当初予算で想定したドルの交換レートがドル高のために赤字額が増加したと報告があり、これを了承した。また、ニューヨークタイムズに掲載されたNECブリッジフェスティバル関連の3回分の記事の提出があった。

APBF代表委員について今回は山田理事が日本の代表委員を務めることに決定した。

Yeh Bros杯の日本オープンチームは、当初代表6名のうち4名が参加する予定であったが、陳-古田ペアがYehチームに参加することになり、残り4名のうち1名が仕事の都合で出場できないため、シニア代表の井野正行氏を加えた4名で参加することになった。交通費助成については前回理事会で承認したが、オープンのメンバー以外のチーム編成で参加する場合、チームに対する交通費助成を認めるか検討を行い、代表助成規則に従い今回は助成を見送ることに決定した。

## 第8号議案 その他議案

### 1. チャリティ寄付先について

チャリティ寄付先について検討を行い、以下の寄付を行うことに決定した。

高松宮妃癌研究基金

20万円

全国視覚障害者雇用促進連絡会	20万円
プランジヤパン	20万円
癌研究会	15万円
朝日新聞厚生文化事業団	10万円
アイメイト協会	10万円
あしなが育英会	10万円
日本イコモス国内委員会	10万円
横浜音声訳グループやまびこ	5万円
<u>国連WFP協会</u>	<u>5万円</u>

合計 125万円

来年度以降は、寄付先や金額の妥当性を検討するために、年度末より早い時期に議案とすることになった。また、チャリティゲームの開催について検討することになった。

2. 次回の理事会開催について

次回理事会は2015年4月24日（金）午後6時30分に開催する。

会員総会は2015年5月30日（土）午前10時に開催する。

当日配布書類：第3号議案「事業計画書（修正分）」

第6号議案「第4回センター協議委員会議事録」「競技会事業部活動報告」

「ユース報告」

「ニューヨークタイムズ掲載記事」

「平成26年度予算決算対照表」「比較財務諸表」

平成27年3月27日（2015年）

公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟

第24回理事会

代表理事 鳩山 勝郎

監 事 神代 高弘

監 事 成田 秀則